TSUCHIURA CITY MUSEUM

土浦市立博物館

戦争の記憶マップ

戦後七〇年「市民の記憶」収集事業の一環として、土浦市域とその周辺に残る海軍航空隊関係施設や史跡など、戦争の記憶を残す場所を写真とともに紹介しています。

その土地に刻まれた戦争の記憶を残すことで、土浦が戦争とは無関係ではなかったことを知り、市民がその地を訪ね、戦争と平和について思いをめぐらすきっかけとなることを願うものです。

❶ 防空監視哨跡
ぼうくうかんししょうあと
藤沢　MAP A-2

敵機をすばやく発見し報告するための監視哨がありました。初めは警察署に近い火の見櫓が、後に藤沢村役場の屋上が使用されました。

❷ 防空監視哨跡
ぼうくうかんししょうあと
大畑（鷲神社付近）　MAP A-2

❶の監視哨が昭和１９（1944）年に鷲神社の西側の畑の中に移転し、新治地区一円の防空監視哨がここに統合されました。地下に聴音室、地上に哨楼が設けられました。

❸ 大畑飛行場跡
おおばたけひこうじょうあと
大畑　MAP B-2

海軍航空隊の小型機の退避場として計画されていた航空基地（飛行場）の一つです。長さ800m×幅60mの規模で工事中でしたが、完成はされませんでした。筑波線の常陸藤沢駅が最寄り駅にあたりました。

❹ 開拓の碑・引揚者開拓地
かいたくのひ・ひきあげしゃかいたくち
中都町（中都公民館付近）　MAP B-2

中都町は戦後、旧満州からの引揚者・戦災者が中心になり、昭和２２(1947)年から２３年の入植により開墾されました。引揚者・戦災者の出身地は茨城・長野・新潟・宮城・山形・岩手の各県でした。

❺ 神立平飛行場跡
かんだつだいらひこうじょうあと
神立東　MAP D-2

海軍航空隊の中級以下の機体による滑空機教育のため、長さ800m×幅400mの規模で整備されました。昭和２０（1945）年６月に飛行場開設式が挙行されましたが、本格的に使用されることはありませんでした。開設式には、女優の高峰三枝子が参列したそうです。

❻ 戦車壕掘り作業跡
せんしゃごうほりさぎょうあと
神立町（観音寺裏山）MAP C-2

昭和２０（1945）年５月頃、陸軍の兵隊が観音寺に駐留し、裏山に幅５～６m、奥行８～９m、高さ３～４m位のコの字型の穴を４か所掘りました。アメリカ軍が鹿島灘へ上陸した時に戦車を隠すためのものといい、現在も遺構の一部が残っています。

❼ 米軍戦闘機墜落現場
べいぐんせんとうきついらくげんば
手野町　MAP C-3

昭和２０（1945）年２月１６日未明、第一海軍航空廠が初めて空襲を受けた際、航空廠砲台からの対空射撃により、アメリカ軍の艦載機が墜落した現場の一つです。２機墜落し、１機はこの霞ケ浦石田沖に、もう１機は上大津村役場近くであったと記憶されています。

❽ 藤田東湖像
ふじたとうこぞう
真鍋４丁目（土浦第一高等学校構内）　MAP B-2

勤王思想高揚のため、昭和１８（1943）年に茨城県が旧制土浦中学校の中庭に建てたコンクリート像です。戦後は地中に埋められていました（国指定重要文化財・土浦中学校旧本館にて保管）。

昭和２０年度の卒業生（『戦いの中の青春』より）

❾ 色川三郎兵衛銅像跡地・現在地
いろかわさぶろべえどうぞうあとち・げんざいち
下高津２丁目（跡地：常福寺）　MAP B-3
川口２丁目（現在地）MAP C-3

下高津２丁目の紅葉が丘には、色川三郎兵衛像（1939年建）がありました。戦中に金属回収により供出されましたが、昭和５５（1980）年に霞ケ浦湖畔に復元されました。

❿ 紫山塾跡
しざんじゅくあと
真鍋５丁目（八坂神社となり）　MAP B-2

昭和３（1928）年に本間憲一郎（1889～1959）が開塾。昭和１４（1939）年には「一県まことむすび運動」を提唱し、勤王思想と殉国精神を国民全体に展開しようとしました。（非公開）

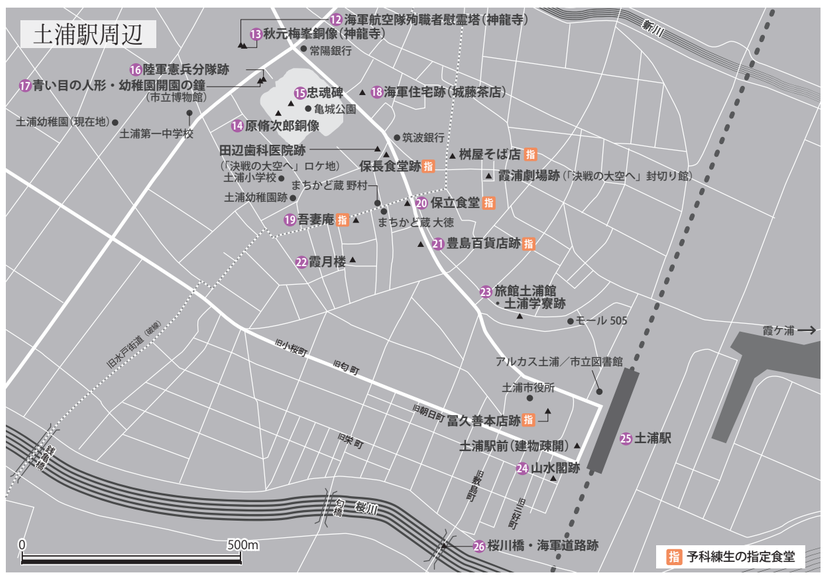
⓫ 第一海軍航空廠忠霊碑
だいいちかいぐんこうくうしょうちゅうれいひ
真鍋５丁目（八坂神社）　MAP B-2

第一海軍航空廠の職員工員６８名が南方で殉職したため、昭和１９（1944）年６月に航空廠内に建てられました。戦後土地が払い下げられたため、昭和５５（1980）年に八坂神社境内に移築、修復・再建されました。

⓬ 海軍航空隊殉職者慰霊塔
かいぐんこうくうたいじゅんしょくしゃいれいとう
文京町（神龍寺）　MAP B-3

霞ヶ浦海軍航空隊での航空機事故犠牲者の慰霊塔です。昭和１０（1935）年に建てられ、殉職者４１人の名が刻まれています。

神龍寺の参道近くの家には霞ヶ浦海軍航空隊に副長として赴任中だった山本五十六が住んでおり、住職の秋元梅峯と交友がありました。



土浦駅周辺
つちうらえきしゅうへん

旧城下町であった土浦町が劇的に変化するきっかけとなったのが、大正１１（1922）年に阿見村に開隊した霞ヶ浦海軍航空隊の存在です。土浦は飲食店の集団移転や海軍住宅の建設、桜町一帯の新市街地の整備など、航空隊の活動を下支えする海軍の町としての性格をもつようになりました。

土浦が市制施行した昭和１５（1940）年には、土浦海軍航空隊（通称「予科練」）も開隊し、休日には予科練生の外出先として、市内の「クラブ」「下宿」と呼ばれた民家や「指定食堂」は大いににぎわいました。当時の様子は、予科練生の生活・訓練をテーマとした映画「決戦の大空へ」（1943年）で描かれています。

栄町

桜川堤の桜

⓭ 秋元梅峯銅像
あきもとばいほうどうぞう
文京町（神龍寺）　MAP B-3

梅峯住職（1882～1934）の銅像は、昭和９（1934）年に建てられましたが、戦中、金属回収に伴い供出されました。現在は戦後に復元した胸像があります。

梅峯が組織した大日本仏教護国団は、海軍殉職者の慰霊や土浦の商業振興などを目的として大正１４（1925）年に花火大会を開催しました。これが今日まで続く土浦全国花火競技大会の始まりです。

⓮ 原脩次郎銅像
はらしゅうじろうどうぞう
中央１丁目（亀城公園）　MAP B-3

原脩次郎（1871～1934）は茨城県初の国務大臣です。昭和１０（1935）年に立像が建てられましたが戦中に金属回収に伴い供出され、戦後、胸像が復元されました。

⓯ 忠魂碑
ちゅうこんひ
中央１丁目（亀城公園）　MAP B-3

大正１１（1922）年、陸軍大臣山梨半造の揮毫により建てられました。大正９（1920）年におこった尼港事件の犠牲者を弔うため、土浦町の青年会の働きかけが建立のきっかけになったと考えられます。

⓰ 陸軍憲兵分隊跡
りくぐんけんぺいぶんたいあと
中央１丁目（土浦市立博物館）　MAP B-3

市立博物館の場所には、戦中は憲兵分隊の庁舎がありました。戦後、建物は図書館や幼稚園、郷土資料館として活用され、市立博物館の建設に伴い解体されました。建設に伴う発掘調査では銃弾が発見されています。

出土した銃弾

⓱ 青い目の人形・幼稚園開園の鐘
あおいめのにんぎょう・ようちえんかいえんのかね
中央１丁目（土浦市立博物館）　MAP B-3

昭和２（1927）年に友好のしるしとしてアメリカから贈られた人形です。戦中でも処分されず土浦幼稚園で保管されました。鐘は地中に埋められ、金属回収をまぬがれました。市立博物館では、土浦幼稚園の資料を保管しています（常時公開はしていません）。

⓲ 海軍住宅跡（城藤茶店）
かいぐんじゅうたくあと（しろふじのちゃみせ）
中央２丁目　MAP B-3

昭和１１（1936）年、亀城通り開通後に建てられた書院造りの住宅で、海軍士官が借りて住んでいました（現在は古民家カフェとして活用）。市内生田町や下高津・小松などには、海軍住宅と呼ばれた住宅地がありました。

生田町の海軍住宅（予科練平和記念館所蔵）

⓳ 吾妻庵 指
あづまあん
中央１丁目　MAP B-3

明治６（1873）年創業のそば屋です。休日の日中に予科練生が訪れることのできる「指定食堂」でした。戦中に使用された看板も現存しています（常時公開はしていません）。

⓴ 保立食堂 指
ほたてしょくどう
中央１丁目　MAP B-3

明治２（1869）年創業の食堂です。予科練生の「指定食堂」のひとつでした。丼物が人気で、店の二階は予科練生と家族との面会にも利用されました。

㉑ 豊島百貨店跡 指
とよしまひゃっかてんあと
中央１丁目　MAP B-3

豊島百貨店は、大正６（1917）年創業の土浦繭糸市場が、繭の取引以外の時期に営業していた百貨店で、土浦最初のデパートでした。食堂が予科練生の「指定食堂」になっていました。

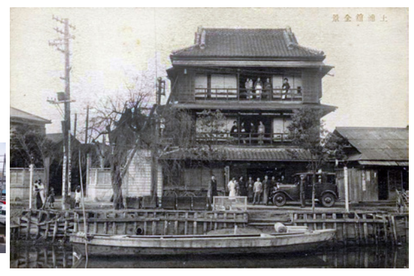
㉒ 霞月楼
かげつろう
中央１丁目　MAP B-3

明治２２（1889）年創業の料亭です。航空隊ではKG（ケージー）と呼ばれ、霞ヶ浦海軍航空隊副長山本五十六をはじめ、海軍士官がよく利用しました。建物内には資料室があり、写真の海軍士官の寄せ書き屏風も現存しています（常時公開はしていません）。

㉓ 旅館土浦館・土浦学寮跡
りょかんつちうらかん・つちうらがくりょうあと
川口１丁目　MAP B-3

旅館「土浦館」は、昭和１９（1944）年に「土浦学寮」となり、東京からの疎開児童を受け入れました。東京都戸山国民学校の３・４年生が土浦へ疎開してきました。

現在は駐車場となっている



㉔ 山水閣跡
さんすいかくあと
桜町１丁目　MAP B-3

山水閣は、三好町にあった料亭で、当時土浦に下宿していた海軍青年将校たちによって、五・一五事件の謀略が練られた場所であると伝えられています。

㉕ 土浦駅
つちうらえき
有明町１丁目　MAP C-3

土浦駅は明治２８（1896）年に開設、大正期の海軍航空隊の設置後は、航空隊の玄関口となり、昭和１１（1936）年には軍艦型の新駅舎が完成しました。昭和１８年には常磐線三重衝突という痛ましい事故がありました。空襲による延焼を防ぐため駅前では建物疎開があり、戦後は広場、現在はバスターミナルとなっています。

【常磐線三重衝突事故】

昭和１８（1943）年１０月２６日、常磐線土浦駅構内で入換作業で移動中だった貨車と上り本線を通過中の貨物列車が衝突、脱線し、さらに下り普通列車と衝突した三重衝突事故が発生しました。普通列車の客車４両が脱線転覆し、桜川に落下する車両もあり、多くの犠牲者を出しました。　この事故については、戦時下であったためにほとんど報道されることはありませんでした。事故現場には昭和６１（1986）年に慰霊碑が建立されました。（非公開）

㉖ 桜川橋・海軍道路跡
さくらがわばし・かいぐんどうろあと
桜町１丁目　MAP B-3

桜川橋は大正１２（1923）年に架けられた、茨城県初のコンクリート製の橋です。橋は現在の国道１２５号上にあり、阿見町へと繋がります。通称「海軍道路」は、霞ヶ浦海軍航空隊の軍用道路として整備されました。

㉗ 海軍病院跡
かいぐんびょういんあと
下高津２丁目（霞ヶ浦医療センター）　MAP B-3

霞ヶ浦海軍病院は、昭和１６（1941）年に創設され、戦後は海軍の解体により、厚生省へ移管されました。消火栓や給水タンクのほか、コンクリート造りの遺構が敷地内に残ります。当時の門柱が、正面入口の門柱に使用されています。

㉘ 東京電機跡
とうきょうでんきあと
中高津３丁目（土浦第四中学校となり）　MAP B-3

昭和１２（1939）年に東京電機製造株式会社の土浦工場がおかれ、航空機用の発電機やモーターなどが製造されました。昭和１９年からは地元の学生も勤労動員されて働きました。

㉙ 大岩田予科練の一本松
おおいわたよかれんのいっぽんまつ
大岩田　MAP C-3

「予科練の松」と呼ばれ、霞ケ浦を航行する際の目印となり、予科練生や地元民に親しまれていました。昭和５２（1977）年に枯死したため、予科練関係者の尽力により二代目の松が植栽されました。

現在の松は平成７（1995）年に植えられた三代目の松です。

㉚ 土浦海軍航空隊跡
つちうらかいぐんこうくうたいあと
阿見町青宿（陸上自衛隊 土浦駐屯地・武器学校）　MAP C-4

昭和１４（1939）年３月に、横須賀海軍航空隊の海軍飛行予科練習生が霞ヶ浦海軍航空隊の水上班に移り、これが霞ヶ浦海軍航空隊予科練習部（通称「予科練」）となり、翌年独立したのが土浦海軍航空隊です。終戦までの１５年間で約２４万人が入隊し、うち約２万４千人が飛行練習生課程を経て、戦地へ赴きました。戦後、跡地には自衛隊の武器学校が移転され、隣接地に予科練平和記念館が建設されています。

霞ケ浦で訓練する予科練生

空襲で焼け残った塀

土浦駐屯地

㉛ 航空隊空襲慰霊碑
こうくうたいくうしゅういれいひ
大岩田（法泉寺前）　MAP C-3

空襲の犠牲となった土浦海軍航空隊職員及び飛行予科練習生２８１名の慰霊碑です。昭和２０（1945）年６月１０日、土浦海軍航空隊は大型戦略爆撃機Ｂ２９により大きな被害を受けました。

㉜ 飛行船ツェッペリン伯号飛来の地
ひこうせんつぇっぺりんはくごうひらいのち
阿見町阿見　MAP B-4

昭和４（1929）年８月１９日、ドイツの大型飛行船ツェッペリン伯号が霞ヶ浦飛行場に着陸しました。飛行場には、第一次世界大戦の戦利品であるドイツ製大型格納庫があり、この時、利用されました（記念碑は㊱の広報センター前に移設）。

㉝ 霞ヶ浦海軍航空隊本部地区跡
かすみがうらかいぐんこうくうたいほんぶちくあと
阿見町中央３丁目（茨城大学農学部構内）　MAP C-4

大正１０（1921）年に臨時海軍航空術講習部が設立され、翌年独立し霞ヶ浦海軍航空隊が誕生しました。本部があった一角が、現在茨城大学農学部になっており、軍艦旗掲揚塔や門柱などが残されています。コンクリート製の方位盤は、霞ヶ浦海軍航空隊を中心として各方位に秋田・仙台など主要な都市を記したものです。（阿見町指定文化財）

方位盤

㉞ 土浦海軍航空隊適性部跡
つちうらかいぐんこうくうたいてきせいぶあと
大岩田（土浦第三高等学校）　MAP C-3

海軍航空要員研究所（適性部）では、飛行兵の採用試験や適性検査が行われました。土浦三高校舎改築に伴う発掘調査の際、終戦時に分解して廃棄したと思われる検査器具の部品が発見されています。

出土した器具部品（阿見町所蔵）

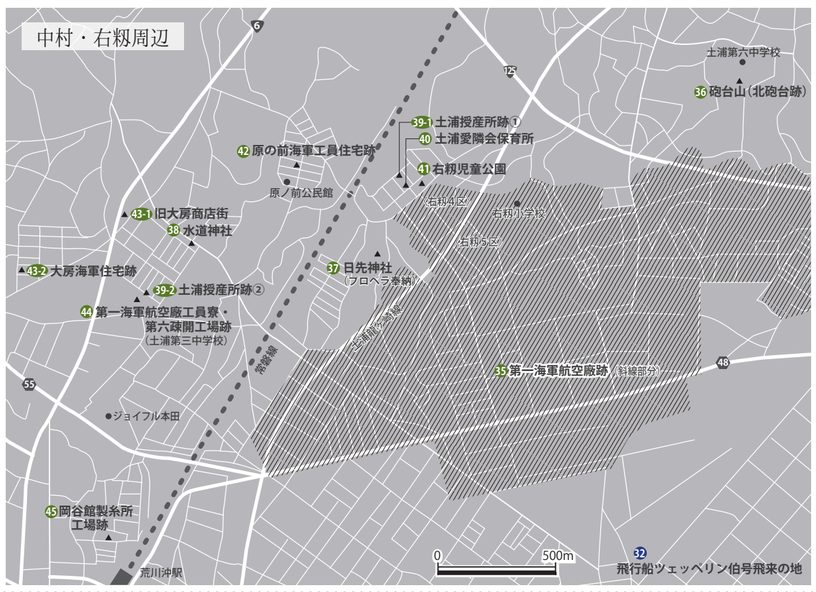
中村・右籾周辺
なかむら・みぎもみしゅうへん

土浦市の中村・右籾地区には、戦後、海外からの引揚者の寮および住宅が建設され、「土浦引揚寮」には約800世帯3500人が居住しました。同地区は、茨城県が同胞援護会に管理を委託する形で運営され、授産所や保育所を開設、陳情の努力が重ねられ、引揚者らの生活環境が次第に整えられました。

市川喜久
いちかわきく

自身も引揚者だった市川喜久（1905～96）は、請われて同胞援護会婦人部長をつとめ、引揚者の生活環境の向上に奔走しました。授産所や保育所の運営に力を尽くしています。

市川喜久（中央・着物姿）と子供たち（昭和２０年代）



㊶ 右籾児童公園
みぎもみじどうこうえん
右籾　MAP B-4

右籾４区にあります。戦後、住民の手により作られました。昭和３０(1955)年頃、引揚者が住んでいた１・２寮が取り壊しとなり、その廃材で公民館が建てられたそうです（現在の「ときわ児童館」は1994年建設）。

㊷ 原の前海軍工員住宅跡
はらのまえかいぐんこういんじゅうたくあと
中　MAP B-4

戦後、航空廠の工員宿舎が払い下げられ、引揚者や元軍人が多く入居しました。昭和３０年頃の四軒長屋の様子を再現した模型が原ノ前公民館に保管されています（常時公開はしていません）。

常磐線側からの風景

四軒長屋の様子

㊸ 旧大房商店街・大房海軍住宅跡
きゅうだいぼうしょうてんがい・だいぼうかいぐんじゅうたくあと
中村南１・５丁目　MAP A-4～B-4

戦後、戦地からの引揚者たちが住居を構え、店舗を営み、発展させた地域です。

㊱ 砲台山（北砲台跡）
ほうだいやま（きたほうだいあと）
右籾（土浦第六中学校付近）　MAP B-4

昭和１８（1943）年頃に開設された砲台の一つであり、砲台山と呼ばれました。最新鋭の高角砲を備えていた北砲台（烏山砲台）には、砲台跡であったことを示す探照灯の基礎部分が林の中に残っています。南砲台の基礎部分は現在埋め戻されています。

㊲ 日先神社（プロペラ奉納）
ひのさきじんじゃ（ぷろぺらほうのう）
右籾　MAP B-4

日先神社は、東国三社（鹿島・香取・息栖神社）の祭神を祀っており、創建は源頼義・義家親子に起源するという伝説を持っています。祭神の一つが武神であることから、戦中は武運長久を祈願する参拝者が多く、社殿入口には奉納された木製のプロペラが掲げられています。

㊳ 水道神社
すいどうじんじゃ
中村南１丁目（中村水道組合管理）　MAP B-4

第一海軍航空廠の官舎に水を供給していた井戸をまつっています。かつては約800世帯へ、現在は約500世帯へ水を供給しています。

現在も水を供給している

㊴ 土浦授産所跡
つちうらじゅさんじょあと
右籾　MAP B-4

中村・右籾地区の引揚者のなかには、４６世帯の母子家庭があり、生活再建のため、土浦授産所（開設時は右籾授産所）が開設されました。市川喜久は、授産所で作られた製品の販路を開拓し、引揚者が生計を立てられるよう、尽力しました。

土浦授産所跡①

土浦授産所跡②

㊵ 土浦愛隣会保育所
つちうらあいりんかいほいくしょ
右籾　MAP B-4

外で働く母親のために昭和２３（1948）年、市川喜久により無認可ながら右籾保育所が開設されました。昭和２７年には社会福祉法人土浦愛隣会として再出発しました。保育所開設当時に植えられた桜並木の桜が一部残っています。

㊹ 第一海軍航空廠工員寮・第六疎開工場跡
だいいちかいぐんこうくうしょうこういんりょう・だいろくそかいこうじょうあと
中村南１丁目（土浦第三中学校）　MAP B-4

現在の土浦第三中学校の場所には、第一海軍航空廠の工員寮や疎開工場がありました。東中学校（現第三中学校）開校時には、建物が再利用されました。

㊺ 岡谷館製糸所工場跡
おかやかんせいしじょこうじょうあと
中荒川沖町　MAP B-4

荒川沖駅前にあった岡谷館は、明治４０（1907）年創業の製糸（繭から生糸を生産）工場です。昭和１７（1942）年に軍に接収され、軍需工場となりました。

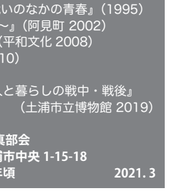
■【予科練平和記念館】よかれんへいわきねんかん
MAP C-4

平成２２（2010）年、阿見町により、予科練習生の歴史や阿見町の戦争関連の記録などを保存・展示する施設として開館しました。

阿見町大字廻戸5-1
午前９時～午後５時
029-891-3344

■【雄翔館】ゆうしょうかん
MAP C-4

駐屯地内に昭和４３（1968）年開館。予科練戦没者の遺書・遺品を収蔵・展示しています。予科練出身者、遺族などで構成される公益財団法人海原会が管理しています。



阿見町青宿121-1
（陸上自衛隊　土浦駐屯地内）
午前９時３０分～午後４時３０分
03-3768-3351（財団事務局）
029-887-1171（陸上自衛隊　土浦駐屯地・武器学校 広報援護班）

写真出典・主な参考文献

『ふるさとの思い出 写真集明治大正昭和　土浦』（図書刊行会 1880）
『図説　新治村史』（新治村史編纂委員会 1986）
『土浦愛隣会のこと』（筑波書林 1990）
『むかしの写真　土浦』（土浦市教育委員会 1990）
『第一海軍航空廠動員学徒の集い記念誌 戦いのなかの青春』（1995）
『阿見と予科練～そして人々のものがたり～』（阿見町 2002）
『フィールドワーク　茨城県の戦争遺跡』（平和文化 2008）
『絵葉書にみる土浦』（土浦市立博物館 2010）
『町の記憶』（土浦市立博物館 2019）
『「市民の記憶」収集事業報告書　土浦の人と暮らしの戦中・戦後』（土浦市立博物館 2019）

写真撮影協力：土浦市文化財愛護の会 写真部会
編集・発行／土浦市立博物館　茨城県土浦市中央 1-15-18
表紙写真：旅館土浦館　昭和８（1933）年頃　　**2021. 3**